

報告タイトル

中国・西部地域におけるインフラ建設の経済発展への影響に関する実証分析
—空間ダービンモデルに基づいて—
“An Empirical Analysis of the Impact of Infrastructure Construction on Economic
Development in Western China -Based on Spatial Durbin Model”

氏名(所属)

章超(同志社大学)
ZHANG Chao (University of Doshisha)

要旨(800字程度)

中国では、改革開放が始まった初期において、東部沿海地域への傾斜政策が実施された。それに起因した東部と西部の経済格差を是正すべく、中国政府は2000年に「西部大開発」戦略を打ち出し、西部地域のインフラ整備などに莫大な資金を投入している。通常、インフラ整備は地域発展の起爆剤として当該地域の経済発展を促すだけでなく、空間的波及効果を通じて、近隣地域の経済発展にもプラスの影響を与えられられる。

本稿では、2002-20年における中国・西部地域における経済成長とインフラ建設の関係に焦点を当て、空間ダービンモデルに基づいて、①交通インフラ、情報インフラ、エネルギーインフラが経済発展にどのような影響を与えているか、②近隣地域への空間的な波及効果が存在するかについて実証的に分析する。地域経済水準を表すGRPの信憑性や実質化の難しさを克服すべく、モデルの推計では、客観性と汎用性の高い夜間光データを地域経済水準の代理指標として利用する。地理的情報を用いる本研究は従来の線形回帰モデルに比べて一定の独自性をもつ。

分析の結果、①交通インフラは地域の経済発展に促進効果をもち、近隣地域にも正の波及効果がある。②5G基地局、ビッグデータセンター、産業IoTなどに対する積極的な推進に現れる情報インフラも地域の経済発展を促進する効果と、空間的な波及効果を発揮した。③エネルギーのインフラ建設は近隣地域に負の波及効果だけでなく、西部地域全体の経済発展に負の効果を与えている。これは主として西部地域における「資源の呪い」や過剰な資源採掘に伴う外部不経済に由来したのであろう。